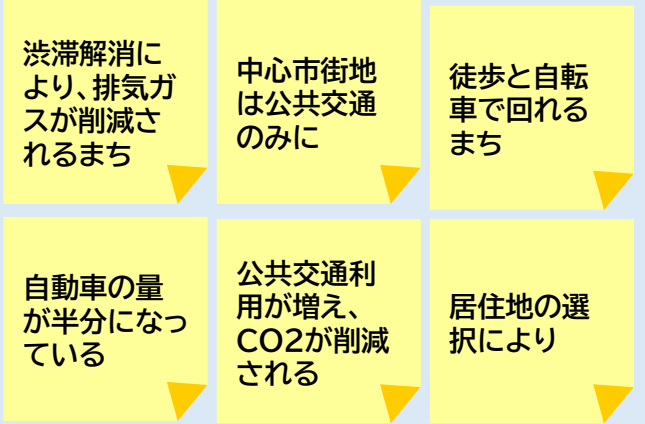
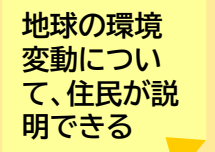
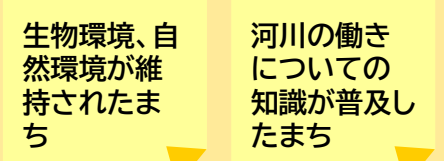
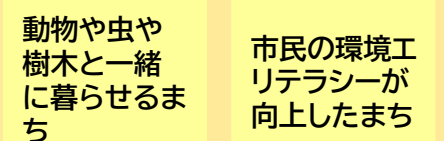
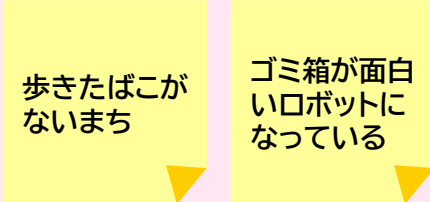


環境

交通と環境に関する未来

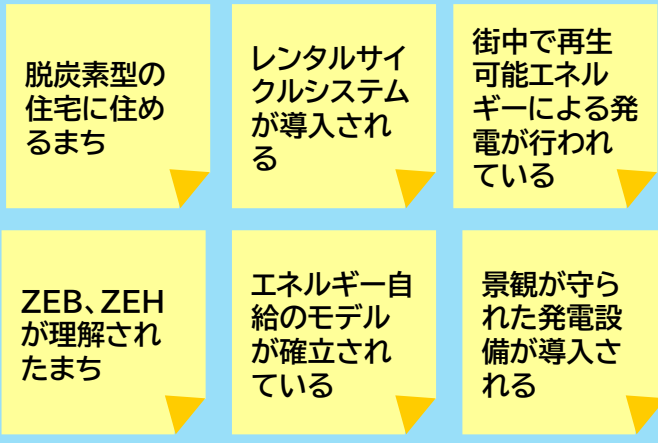


ごみに関する未来

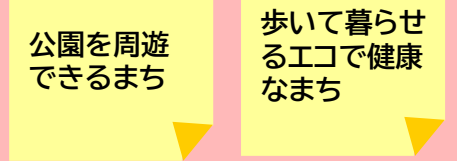
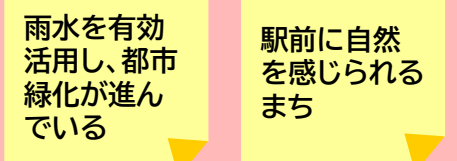
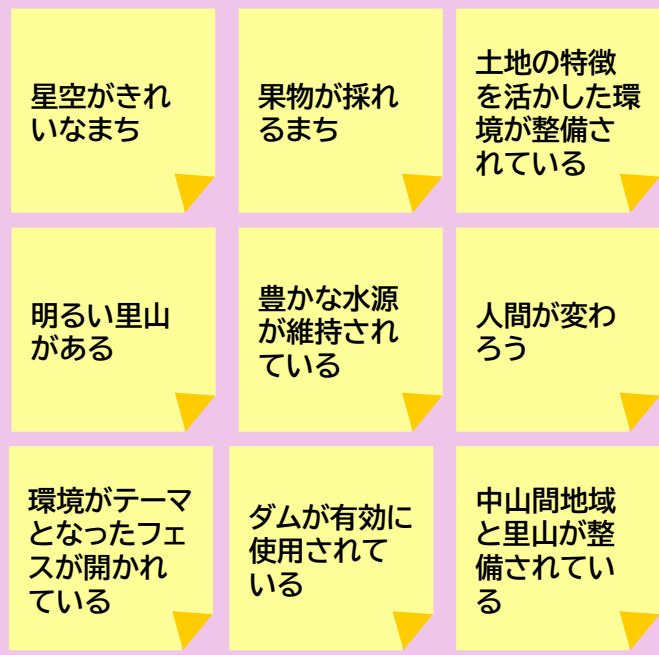


環境教育に関する未来

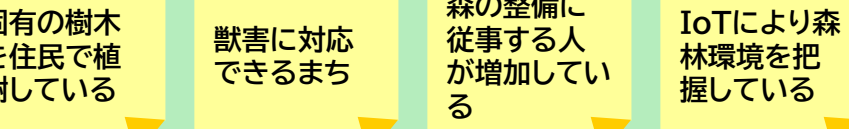
エネルギーに関する未来



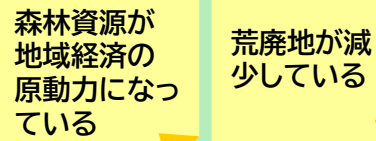
その他に関する未来



まちの環境に関する未来



森林に関する未来



● 環境分野で特に重要視された未来

星空がきれいなまち

明るい里山がある

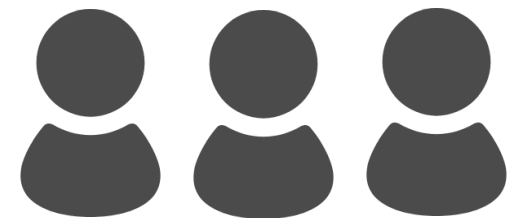
豊かな水源が維持されている

果物が採れるまち

土地の特徴を活かした環境が整備されている

- ・ 外からの長野のイメージを守る、維持することが長野の環境のPRになる。
- ・ 住環境の良さは外部（観光客等）からみた環境の良さにもつながる。
- ・ 里山と人が暮らすまちが接続しているまちであってほしい。

長野のイメージ
(自然豊かな環境) が維持

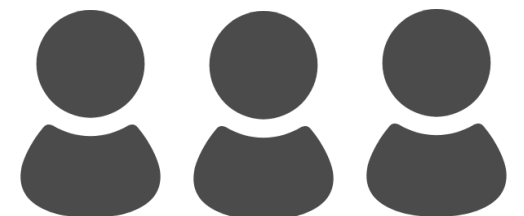


地球の環境変動について、住民が説明できる

人間がかわろう

- ・ 自然が身近にあることが、環境について考えることにつながる。
- ・ 長野の環境イメージを子どもたちに伝えることは、未来の住環境の良さにもつながる。

環境のことを自分事に



防災・防犯に対する意識、地域コミュニティに関する未来

- 住民の防災・防犯に対する意識が高いまち
- 近所にだれが住んでいるかみんなが把握できている
- 地域が普段から若者との協同の場がある
- 消防団員になるメリットがあるまち
- 災害時にも助け合える関係性があるまち
- 中山間地域の高齢者が中心市街地に住みたくないまち
- 若者と高齢者が共生するまち
- 自治会ごとに連携協定が締結されたまち
- 災害時も地域が分離されない

避難所に関する未来

ペットも一緒に避難できるまち

その他に関する未来

- 自足30kmの自動運転でもせかせかしないまち
- 河川流域全体で雨量を管理できる
- 災害リスクにも対応できるまち
- 過去の教訓を忘れない
- 災害に強いネットワークが整備されている
- 災害が起きても子どもが学校に通うことができる

ハード面の対策に関する未来

- 安全な通学路環境が整ったまち
- 安全な避難場所へアクセスしやすいまち
- 土砂災害や水害に強いまち
- 住宅の災害対策が進んでいる
- まち中に電源スポットが設置されている
- 減災のためのグリーンインフラが進む
- 災害が起きても電気が止まらないまち
- グリーンインフラを推進する組織が増えている

防犯に関する未来

- 小さい子どもが一人でも歩けるまち
- 獣害対策も行き届いたまち
- 街頭や防犯カメラが充実したまち

交通安全に関する未来

- 高齢者が運転しなくて済むまち
- 高齢者が安心して免許返納できるまち
- 自転車、歩行者にやさしいまち
- 自転車が楽しく走れるまち

防災・安全の情報に関する未来

- 避難のタイミングがわかるまち
- 素早い災害情報の伝達が可能となっている
- 情報共有のプラットフォームが充実している

● 防災・安全分野で特に重要視された未来

災害時も地域が分離されない

災害に強いネットワークが整備されている

災害が起きても子どもが学校に通うことができる

過去の教訓を忘れない

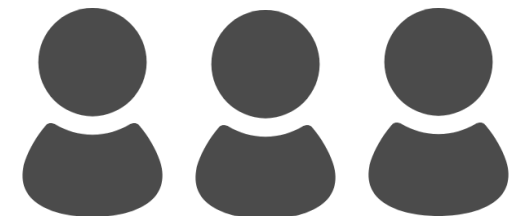
災害が起きても電気が止まらない

グリーンインフラを推進する組織が増えている

災害リスクにも対応できるまち

- ・ 災害が起きたときはインフラだけでなく、人のつながりも大事である。
- ・ 災害に関心な人が市内にいない“まち”になるといい。
- ・ 災害が起きても、市民生活のベースとなる電気もガスも水道といったインフラが止まらないことが、安全なまちになる（中心地も郊外も）。
- ・ 被災時も救急車両がアクセスできるまちが、安全・安心なまち。

災害に強いインフラと地域のネットワークの構築



地区組織や地域活動に関する未来

地区どうしの交流が盛んなまち

女性が住民組織の長を担えるまち

地域の役割は自分たちで自由に決められる

年齢、職業を超えた住民全員のまちづくり会議が開かれている

若い世代が住民組織を運営しているまち

地区の役員になるメリットがあるまち

役員は順番で全員が担うまち

「人任せ」から「ちょっと参加」のモデルが出来上がっている

地区の行事(運動会等)が盛り上がっているまち

地域活動に好きな時に参加できるまち

子どもや若者とコミュニティに関する未来

中山間地域にも学生が残っている

中山間地域と学生の交流が盛んなまち

若者主催のイベントがあるまち

学校の授業で地域活動に参加するまち

拠点や環境に関する未来

空き家を有効活用した交流の拠点がある

犬や猫が自由にに入れる公園が整備されている

学校の教室が地域の交流の場として開放されている

若野茂が集まる場所がある

観光客と住民が集まれる拠点があるまち

地元の人々が自由に話せる場所がある

その他に関する未来

地区の役員には、地域ポイントが付与されるまち

目的ごとに多様なコミュニティが生まれるまち

コミュニティでのデジタルツールの活用が進んでいる

スポーツやイベントを通じてつながれるまち

地域のつながりに関する未来

避難に支援が必要な方を共助できるまち

外から来た人でも入りやすいコミュニティが形成

高齢者がボランティアに参加しやすいまち

● コミュニティ分野で特に重要視された未来

「人任せ」から「ちょっと参加」のモデルが出来上がっている

地域活動に好きな時に参加できるまち

年齢、職業を超えた住民全員のまちづくり会議が開かれている

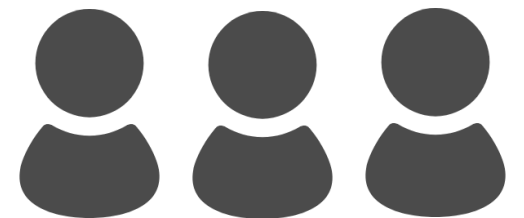
地区の行事(運動会等)が盛り上がっているまち

若い世代が住民組織を運営しているまち

中山間地域にも学生が残っている

- ・ 自分から参加したいと思うようになるきっかけがあることで、皆が参加し、自分の視野も広がり、世間話をするのがコミュニティづくりにつながる。
- ・ 地区の中に多様な世代が集まる場所があると、「参加」につながる。
- ・ 学生が残りたいくなるような、中山間地になるといい。
- ・ 若い世代が住民組織の運営に関わることで、多様な世代が参加したくなり、住民活動が盛り上がる。

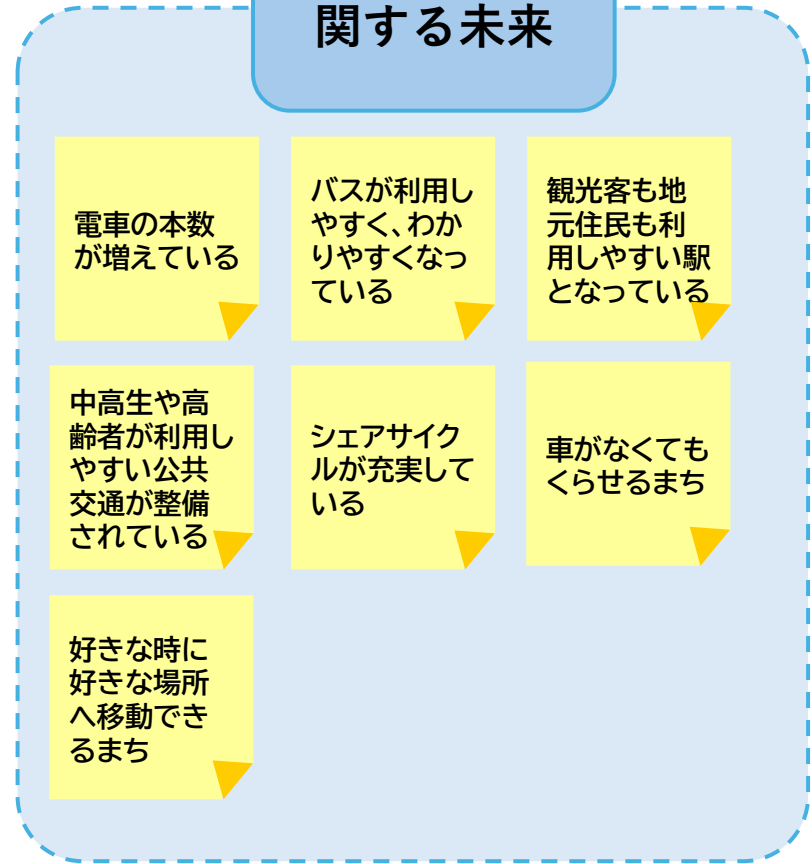
多様な世代が地域活動に参加



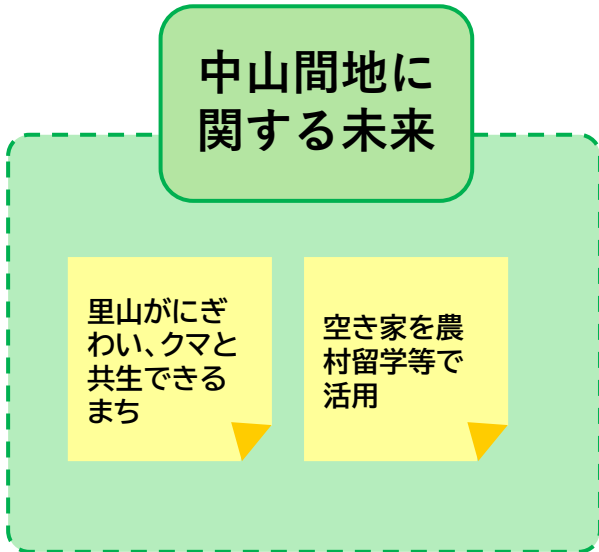
駅前や中心市街地に関する未来



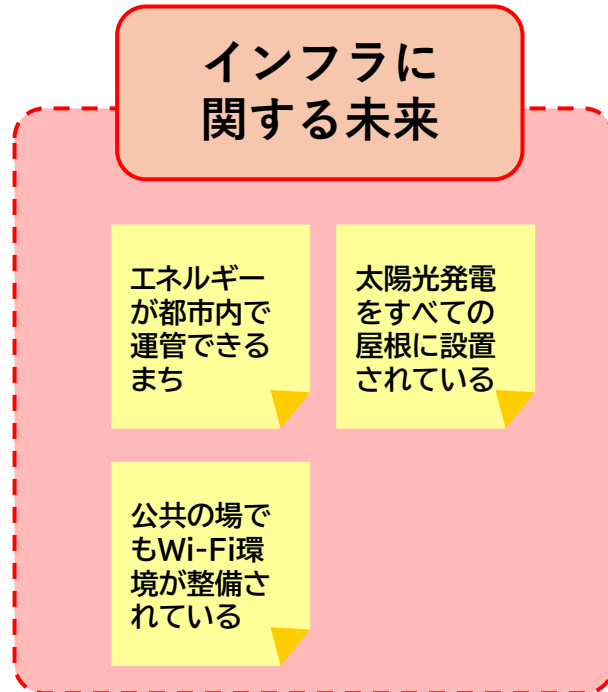
公共交通に関する未来



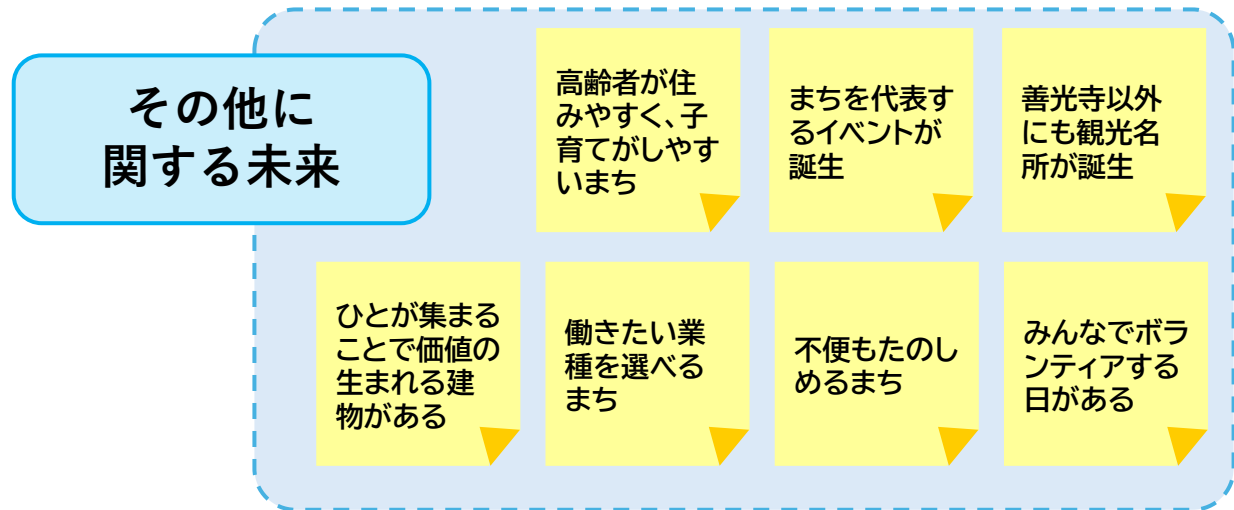
中山間地に関する未来



インフラに関する未来



その他に関する未来



● 都市整備分野で特に重要視された未来

不便もたのしめるまち

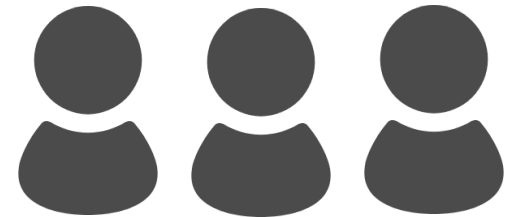
車がなくてもくらせるまち

好きな時に好きな場所へ移動できるまち

駐車場が減り、緑化されたまち

- ・ 電車やバスに限らず、新しい乗り物ができるといい。
- ・ バスの待ち時間など、不便と感じる時間も楽しめることがあるといい。
- ・ マイカーがなくても十分生活できる環境がいい。
- ・ 公共交通が充実した中心地の駐車場は様々な用途に使える。
- ・ 車が減れば、環境も良くなるし、コミュニティも豊かになる。

車に頼らず
移動ができる環境



善光寺を中心とした美しい景観が人気なまち

中心市街地が森となっているまち

24時間人が集まれる施設がある

ひとが集まることで価値の生まれる建物がある

みんなでボランティアする日がある

- ・ まちの維持のための住民活動（ボランティア等）は様々な問題解決につながる。
- ・ 人が集まる場所ができることで、新たなコミュニティが生まれる。

中心市街地に
豊かな自然と
人の賑わいが共存

